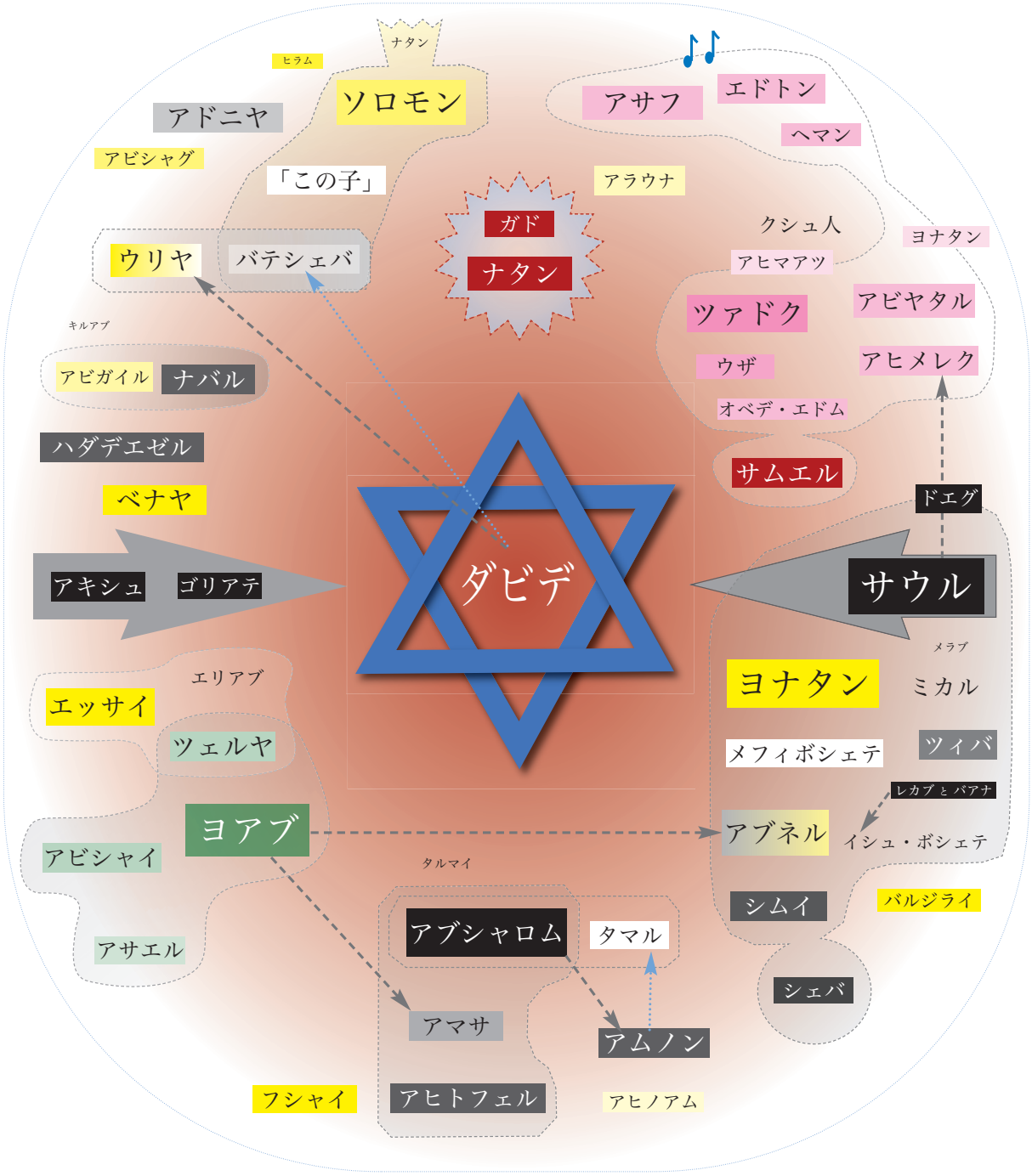
ダビデを


ナタン
ヒラム
ソロモン
アドニヤ
アビシャグ
「この子」
アサフ
エドトン
ヘマン
アラウナ
ガド
ナタン
クシュ人
ヨナタン
アヒマアツ
ウリヤ
バテシェバ
ツァドク
アビヤタル
キルアブ
アビガイル
ナバル
ウザ
アヒメレク
オベデ・エドム
ハダデエゼル
サムエル
ベナヤ
ドエグ
アキシュ
ゴリアテ
ダビデ
サウル
メラブ
エリアブ
ヨナタン
ミカル
エッサイ
ツェルヤ
メフィボシェテ
ツィバ
レカブ と バアナ
ヨアブ
アブネル
イシュ・ボシェテ
アビシャイ
タルマイ
シムイ
バルジライ
アブシャロム
タマル
アサエル
シェバ
アマサ
アムノン
フシャイ
アヒトフェル
アヒノアム

取り巻く人々

ダビデへの神様の約束について

1.) 今日私たちが焦点を合わせるのは、ダビデの生涯の中で最も大事なお方、神様ご自身です。神様は、ダビデがまだ貧しい羊飼いの時に召し出されました(2サム7:8)。そして何十年も後に、神様はまた預言者ナタンを通して王ダビデに偉大な事を語られました(2サム7:4-17)。

2.) 自分を偉大な者に見せるように、現代の政治家たちは、多くの実現不可能な約束をします。しかしダビデは、偉大な者となりました。イスラエルの神が彼をそうしたからです(7:9)。ダビデを王とした後で、神様はさらに、将来の彼の子孫について、偉大な約束を与えられました(7:12-16,19)。“Great”（日本語では「大いなる」）は2サム７章のキーワードです。

3.) この章のもう一つのキーワード、またキーフレーズは「イスラエル」また「わたしの民イスラエル」 (7:7,10,11)です。ダビデに与えられた神様の約束は、王のためだけのものではないからです。ダビデ自身も7:23-24に、イスラエルは永遠に神の特別な民であると言っています。現在は不信仰の状態にあっても、まだ神様の彼らに対するお取り扱いは、終わってはいないのです(ローマ11:26-27参照）。

4.) 多くの約束を伴ったダビデへの契約は、２サム７章のテーマです。しかし約束という言葉は、章の後半にしか出て来ません。7:21,25,28,そして29節（日本語訳）です。ダビデがナタンを通して語られた主の言葉を思い出している時です。神様ご自身は決して、「私は約束する...」とは言われませんでした。ほとんどの場合「私は...する」(I will...)と、未来形の動詞を使って言われました。

5. 神様は7:13-16でダビデに、イスラエルの絶える事のない、彼の子孫による王制を約束されたのですか？明らかにそうではありません。すでに２千年以上もの間、イスラエルにはユダヤ人の王は出ていませんし、1948年に建国したイスラエルは民主制です。

6. ダビデに与えられた約束は、永遠に統治されるメシヤに関係する事であると、聖書学者たちは意見を同じくしています。しかし神学者たちはキリストの王国については、議論を異にしています。ある人々は、教会の上におけるキリストの統治が、唯一神の王国だと言います。またある人々は、エゼキエル37:24-25,黙示20-21章、また他の箇所に約束されているように、イスラエルも含めての文字通り地上での王国が実現すると言っています。

7. 2サム7章や、他の旧約聖書の預言の中心になっているイスラエルは、新約聖書でなくなってはいません。ある人々は、教会がイスラエルの代わりとなって、それは永遠に続くと信じています。しかしイスラエルの12部族は、黙示録でも顕著に言及されています（黙示7:4-8; 21:12)。そしてキリストは国々の中にあって、王の王、主の主であると宣言されるのです（黙示19:16)。この事と、また他の理由も合わせて、現在においても天からのキリストのご支配があるけれども、将来文字通りの千年王国が、イスラエルも含めて地上に成就する(黙示20:4)、と言うことができるでしょう。

　２サム７章も含めて、聖書の預言を十分に理解する事は難しいです。しかし神様の約束は、ダビデにとっても、また私たちにとっても大きな励ましであり、軽視また無視するべきではありません。

２サム７章の神様の約束は...

２サム7:1-29を読んで、神様がダビデに与えた約束(7:5-17)について考えましょう。

合っていると思うものには◯、違っているものにはX、どちらでもないものには△をつけましょう。

( ) 偉大な、将来に対する約束？

- ( ) ダビデの将来に関する事 (7:8-9,11-12)?
- ( ) 近い将来に関する事／ソロモン (7:12-14)?
- ( ) 遠い将来に関する事／メシヤ (7:16,19)?

( ) ダビデのため？

- ( ) 神殿を建てたいというダビデの願いに応えて (7:4,11)?
- ( ) ダビデの人生の中で最も重要な事 (7:28-29)？
- ( ) 信仰によって喜んで、また謙遜に受け取った (7:18-22,28)？

( ) イスラエルのため？

- ( ) その地での、イスラエルの将来の保証について (7:10)？
- ( ) 主のアブラハムへの約束と関係深い (創12:1-3,15:7,18)？
- ( ) 異邦人の信者のためにも (7:19,23-24,創12:3,ガラ3:8)？

( ) 今日のクリスチャンに対する約束のよう？

- ( ) 確かなもので励まし。保証について？
- ( ) ヨハネ10:28の約束に似ている？
- ( ) 無条件 (7:13-16, 24, 28, 1 列王 9:5-9)？

結論と適用

「ダビデを取り巻く人々」祈祷会学びシリーズ (No. 14)

２サムエル７章は長くて難しすぎますか？

美術や音楽、また建築や文学の分野でも、ミニマリズムという考え方があります。何でもかんでも可能な限りシンプルにするべきだ、という考え方です。この考え方を主張する人々は、合理的な意見を持っています。聖書の中にもシンプルな箇所がたくさんあります。詩篇23篇、主の祈り、ヨハネ3:16、1テモテ3:16などは、短い言葉で多くの事を語っています。しかし、神様がもしミニマリズムを推奨する方なら、２サムエル記の７章はずいぶん違うものになっていたでしょう。29ある節はきっと２~3節に縮められたでしょう。

その最初の節でダビデは、契約の箱を入れるための神殿を建てたいと言い、２節で神様はそれを拒みます。もし神殿を建てる事だけが大事だったのなら、18〜29節のダビデの長い祈りは削除されたでしょう。ダビデの息子が神殿を建てる事になるという13節は必要かもしれませんから、その場合、７章はただの３節になったかもしれません。しかしそうなれば、もちろん私たちはダビデの信仰、謙遜、感謝、また神様に対する心などについてはあまりわからないでしょう。でも、そんな事を誰が気にしますか？

もし強調が大事なことでなければ、くり返しの言葉やフレーズは削除できるはずです。たとえば13節と16節に出てくる神様の王国の永遠性について。同様にある人は、ダビデは自分の事を「あなたのしもべ」と繰り返している事を批判するかもしれません(19,21,25,26,27,28,29)。もし彼が単なる代名詞を使ったなら、これらの部分はもっと短くなったでしょう。また、神様がユダヤ人を「わたしの民イスラエル」(7,10,11)と呼ばなかったら、そこでも同じ事が言えるでしょう。もし、神の民、神に仕える事、神の永遠の王国などが取るに足らないテーマであれば、それらの言い分は最もな事かもしれません。

イスラエルの神が、ご自分を他の神と違う事を強調しなくてもいいのなら、5~7節は必要なかったでしょう。同じように、もし短くする事だけが大事なのであれば、ダビデの過去について述べ、主がどのように恵み深く彼を導きイスラエルを治めさせるようにした(8~9)かも言う必要はなかったでしょう。さらに、この章の中心人物は神様とダビデなので、２節に初めて名前が出ている預言者ナタンの事など言及の必要はない、という人もいるかもしれません。「目立たない旧約の預言者やダビデの過去など、どうでもいいのでは？」と。

誰がそんな事気にするでしょう？神様にとっては大きな問題です。イスラエルについて、来たるべきメシヤについて、千年王国について、そしてこの箇所で一番大事な事である、ダビデの心について、主は大事に思っておられます。この７章は、ダビデと神様との関係について、他のどこよりも多く語っています。ですから７章を縮約しようとするのなら、それは大きな罪であり損失になります。今日の多くの教会で、聖書の内容を簡単にしている傾向があります。私たちは自然に、長く難しい箇所は勉強したくないものです。シンプルな箇所を好み、また説教者も簡単に話してくれるのを望みます。確かに、難しい事を簡単に説明する事は大事ですが、その過程で、しばしば聖書の真理が失われる事があるのです。行き過ぎたミニマリズムは、今日の教会、特に大きい教会を、だめにしています。